

# 導流堤「命かけ止める」

## 漁民 抗議 国、漁黙認の構え

諫早湾干拓事業で建設が進む導流堤に対し、反対する漁民たちが7日、設置予定海域で操業し、工事の阻止行動を始めた。「これ以上、海が痛めつけられるのは耐えられない」。海上で、陸上で、漁民たちは悲痛な思いを訴えた。

一方、農林水産省は「強制排除はできない」と漁の操業は黙認する方針だが、今後も工事は続行するという。

「漁の迷惑になるので、移動してほしい」。工事用の作業船に要求した小長井町漁協監事の土井修さん(52)はそう言う。約300戸のはえ縄を海に投じた。作業船に乗るのも仲間の組合員。思いは複雑だ。

潮受け堤防の南部排水門沖合の工事予定海域がいつもの漁場だ。網を入れた翌朝、引き揚げにやってくる。狙いはスズキとヒラメ。「漁をしなければ生活ができない。漁業権に基づき、これから毎日、漁に来る」。同漁協理事の松永秀則さん(58)の船には、工事

に反対する漁業者約10人が乗り込んだ。午前9時半すぎ、予定海域周辺で流し網のコノシロ漁を始めた。

漁を始めて約1時間後の午前10時半、作業船が次々と工事海域を離れていった。それを確認して松永さんは網を引き揚げたが、水揚げはなかった。「工事をしていけば、魚は逃げてしまうさ」

も元は漁師。公共工事が自然を守るものであれば、こんなことにはならないのに」

諫早湾干拓事務所は、操業する漁師を強制排除はできないとして、工事は継続しながら漁協を通じて理解を求めているという。だが、抗議する漁民の一人が声を張り上げた。「漁ができなければ、漁師は死んでしまう。殺される前に、命かけて工事を止めるけんね」

この日、漁をする小長井町漁協の漁船2隻を佐賀、福岡、熊本各県の漁船が見守った。佐賀県太良町の大浦漁協から加わった平方宣清さん(54)は若いころ、港湾工事を手



漁をして工事作業船の進入を阻止する小長井町漁協の反対派組合員ら＝諫早湾洋上で